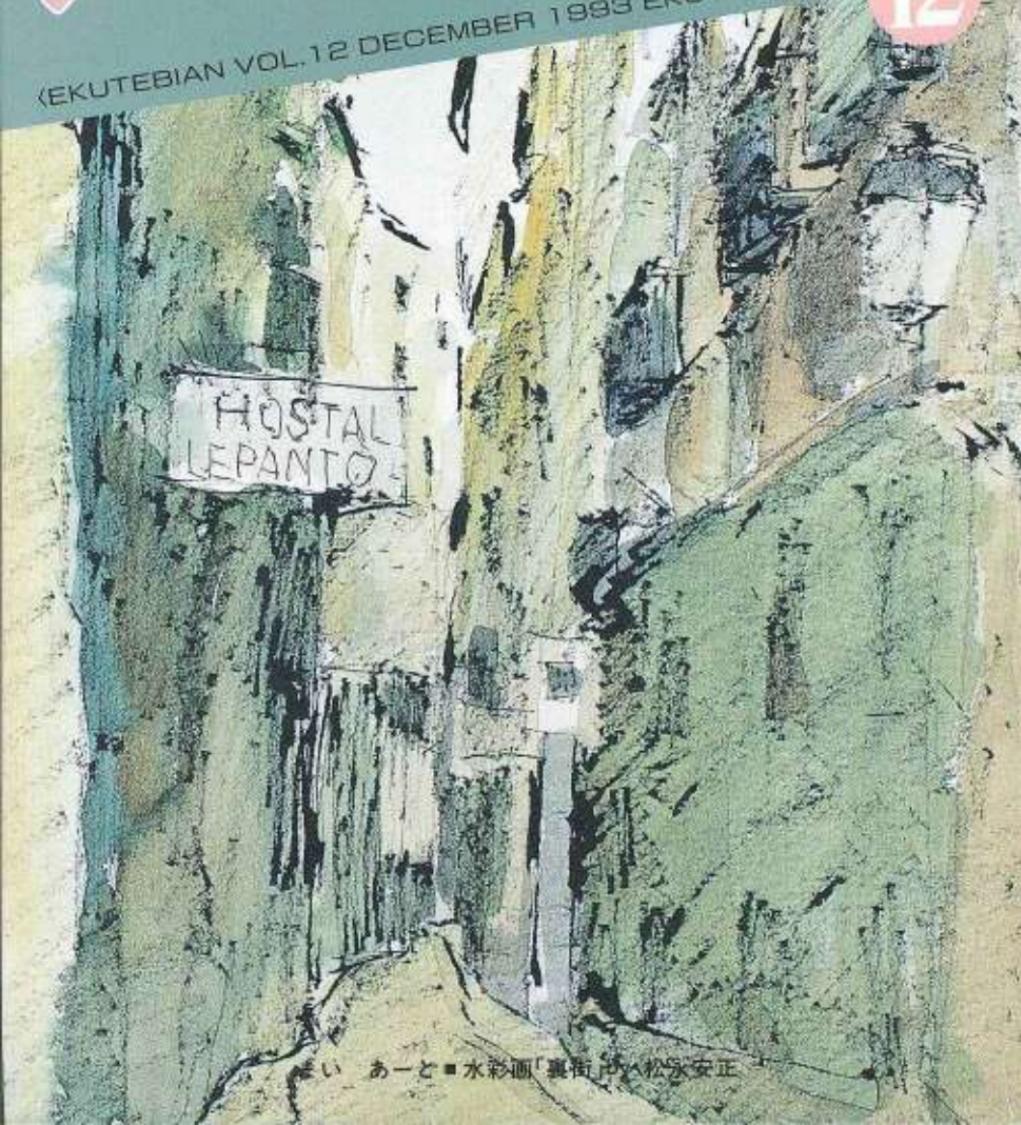
月刊
立川と語ろう　立川に生きよう
えくてびあん
12
〈EKUTEBIAN VOL.12 DECEMBER 1993 EKUTEBIAN〉
HOSTAL
LEPANTO
まい　あーと■水彩画「裏街」松永安正

酒井登志英の“あわゆき”

この人が蕎麦粉に触れている時の目つき、手つきが実に魅力的なのだ。「今日の」「おれの」「蕎麦を」食べてくれという心意気が伝わるのか、繊細な味を求めて遠来のお客を集め、『信更』（栄町5丁目）開店以来12年が経った。特にアーチストの来客が多いのは、酒井さん自身、若い日に美術をおさめ、そのセンスがそっくり「味」に生きているからであろう。ときに、新鋭画家や写真家の作品が『信更』の壁面を飾ることがある。品書きは毎日、酒井さんの筆になる。連載「グルメどき」に一品を依頼すると「あわゆき、いってみましょうか」と云う。まだ卵一個が大切な時代に工夫された庶民の料理で、今日では出してくれる店はほとんどないそうだ。箸をつけると、味はいつもの「酒井流」だった。

撮影：板橋一明

TACHIKAWA グルメどき

えくてびあんレポート

清麗な「時」を彫る

流泉寺の五百羅漢彫りは
平成元年から

25年前の新婚旅行で夫婦道祖神に出逢った思い出にかられて始めましたと語る鶴崎さん夫婦。臨済宗建長寺派泉寺(砂川町)では、誰でも申し込めば、思い思いに石の羅漢さんを彫らせてもらえる。一人で無心に彫る人もいれば、鶴崎さんのように夫婦で仲睦まじく彫る人も。休日足を運び、半年がかりで力作を仕上げたサラリーマンもいる。五百羅漢の成就を願い、一体一体が刻まれていく。

先に始めた夫人に誘われ、
手伝ううちに
いつしか仲良く彫る姿が

「雨に濡れると、羅漢の表情が変わってくるんです」と、手で水をかけながら、鑿を握る鶴崎洋さん

様々な羅漢の表情は作者の
人柄を語るようだ

町	店名	住所	電話
一番町	三菱石油 天王橋ステーション	一番町1-61-6	☎31-2135
羽衣町	和風レストラン 蔦屋	羽衣町2-27-14	☎26-3698
羽衣町	珈琲屋 らうむ	羽衣町2-27-9	☎26-3643
羽衣町	立川商店	羽衣町2-30	☎22-3565
羽衣町	泰明堂	羽衣町2-31-1	☎22-3353
羽衣町	文具の ないとう	羽衣町2-33-1	☎22-3677
羽衣町	洋菓子サロン ケーキスタジオ35	羽衣町2-6-1	☎27-6808
羽衣町	おそのい時計店	羽衣町2-32-2	☎22-5211
栄町	多摩中央信用金庫 栄町支店	栄町2-66-1	☎36-9711
栄町	手打ちそば 信更	栄町5-12-1	☎37-0991
栄町	相模屋酒店	栄町5-61-8	☎36-2476
栄町	森田接骨院	栄町6-6-25	☎35-6240
錦町	高木健康回復センター	錦町1-6-21	☎21-0289
錦町	和菓子処 ゆうき	錦町1-8-5	☎25-0780

町	店名	住所	電話
錦町	むぎばたけ	錦町2-1-1	☎26-0210
錦町	池田屋商店	錦町2-1-10	☎22-3731
錦町	寿屋酒店	錦町2-1-13	☎22-3625
錦町	三田花店	錦町2-5-23	☎24-4187
錦町	立川市市民会館	錦町3-3-20	☎26-1311
幸町	ロッテリア 立川砂川9番店	幸町4-38	☎37-4413
幸町	たちばな	幸町6-1-12	☎37-0347
高松町	自然食 ぱれあな	高松町2-1-23	☎24-4560
高松町	多摩画材	高松町2-1-25	☎22-6031
高松町	洋菓子 マリアン	高松町2-10-22	☎24-3912
高松町	山梨中央銀行 立川支店	高松町2-16-13	☎26-1571
高松町	宝泉菓子店	高松町2-27-3	☎26-1736
高松町	丸助青果店	高松町2-4-18	☎22-3542
高松町	肉の専門店 伊勢屋	高松町2-6-20	☎24-2734

町	店名	住所	電話
柴崎町	くりや	柴崎町2-9-3	☎23-2590
柴崎町	ビジネスホテル クボタ	柴崎町2-12-23	☎22-1122
柴崎町	いなげや 立川南口店	柴崎町2-12-24	☎26-2947
柴崎町	白洋舎 立川諏訪チェーン店	柴崎町2-17-5	☎25-0036
柴崎町	モリタニ漢方薬局	柴崎町2-2-10	☎25-1193
柴崎町	㈲関田酒店	柴崎町2-2-17	☎24-2960
柴崎町	割烹 笹乃雪	柴崎町2-2-9	☎28-2144
柴崎町	ユウ都市企画	柴崎町2-3-13	☎28-2566
柴崎町	ラ・バンバ	柴崎町2-3-3	☎24-5800
柴崎町	LIQUR SHOP はなむら	柴崎町2-3-9	☎22-2491
柴崎町	オーロール焼きたて 立川店	柴崎町2-4-15	☎27-9473
柴崎町	北京大飯店	柴崎町2-4-19	☎22-6393
柴崎町	ななや	柴崎町2-4-22	☎25-6980
柴崎町	リッサ	柴崎町2-4-9	☎21-1978

えくてびあんの輪

人がゐて、街があります。
あなたがゐて、立川があります。
そこにちょっとだけ、えくてびあん！
リストのお店にはいつでも えくてびあん！

町	店名	住所	電話
柴崎町	田中星美堂薬局	柴崎町2-5-3	☎22-3913
柴崎町	菊川園	柴崎町2-5-6	☎26-2035
柴崎町	café コロラド	柴崎町2-5-8	☎26-2285
柴崎町	スタジオ269	柴崎町2-8	☎27-0269
柴崎町	東陶房	柴崎町2-9	☎25-0079
柴崎町	ロッテリア 立川南口店	柴崎町3-1-3	☎22-3928
柴崎町	笠井紙店	柴崎町3-13-24	☎22-8601
柴崎町	矢沢歯科	柴崎町3-16-2	☎25-6600
柴崎町	割烹 紀ノ川	柴崎町3-4-3	☎25-5825
柴崎町	ラ・フィネ	柴崎町3-5-2	☎25-2179
柴崎町	ヨシダ貴金属店	柴崎町3-5-4	☎22-2448
柴崎町	東京相和銀行 立川支店	柴崎町3-6-17	☎22-2171
柴崎町	オリオン書房	柴崎町3-6-27	☎25-3111
柴崎町	あさひ銀行 立川支店	柴崎町3-6-29	☎22-4161
柴崎町	イスパニスタ	柴崎町3-6-3	☎22-2969

町	店名	住所	電話
柴崎町	入船寿司	柴崎町3-6-32	☎22-2474
柴崎町	サンカメラ	柴崎町3-7-22	☎22-3336
柴崎町	ラーメン竜馬	柴崎町3-8-2	☎27-7575
柴崎町	東京都民銀行 立川支店	柴崎町3-9-21	☎22-7107
若葉町	美容室 リラ	若葉町1-11-1	☎36-3048
若葉町	みふじサイクル	若葉町1-12-4	☎36-7166
若葉町	紀ノ国屋 立川店	若葉町1-13-2	☎36-1604
若葉町	ボングー	若葉町1-8-8	☎35-5551
曙町	大晋商事	曙町1-23-9	☎25-3110
曙町	オリオン書房 ルミネ立川店	曙町2-1-1	☎27-2311
曙町	ビューティータナカ ルミネ立川駅ビル店	曙町2-1-1	☎27-6917
曙町	八王子赤十字血液センター 立川出張所	曙町2-1-1	☎27-1140
曙町	朝日カルチャーセンター 立川	曙町2-1-1	☎27-6511
曙町	ロッテリア 立川ルミネ店	曙町2-1-1	☎24-7433
曙町	松下珠算塾	曙町3-33	☎25-1671

町	店名	住所	電話
曙町	トリッププラザ	曙町2-12-1	☎26-3232
曙町	ケンタッキーフライドチキン 立川支店	曙町2-12-16	☎28-2636
曙町	伊勢丹 立川店 受付	曙町2-12-2	☎25-1111
曙町	三菱銀行 立川支店	曙町2-13-3	☎24-4121
曙町	トポス 立川店	曙町2-18-18	☎25-0331
曙町	オリオン書房 第一デパート店	曙町2-2-25	☎23-3311
曙町	印章の 宝山堂	曙町2-4	☎25-0111
曙町	アルビヨン	曙町2-4-28	☎25-3824
曙町	お菓子の家 エミリーフローゲ	曙町2-4-28	☎27-4138
曙町	アンキャフェ・エミリー・フローゲ	曙町2-4-30	☎26-1818
曙町	クリムト	曙町2-4-30	☎26-3030
曙町	第一勧業銀行 立川支店	曙町2-4-30	☎22-5151
曙町	シェ・タスケ	曙町2-5-14	☎27-5959
曙町	さくら銀行 立川支店	曙町2-6-11	☎22-2151
曙町	サヴィニ	曙町2-7-10	☎25-1662

立川トピックス

平山雅彦さん都・中学二百㍍優勝

十月十七日、第46回東京都中学校地区対抗陸上選手権が町田市で開催された。都内23区と多摩7地区、島部2地区の各代表者による対抗戦が繰り広げられた。北多摩西地区代表として参加した平山雅彦さん（立川九中3年、若葉町）は男子陸上二百メートル決勝に進出。二十二秒九の好タイムで優勝した。彼が小学校4年の時からコーチを続けているエリート・ランナーズ・クラブの青木誠一監督は「走るのに理想的体型を持つ平山くんは将来が楽しみ」と語った。平山さんは学校でも文化祭実行委員長を務める等、積極的で明るい性格だ。次は国体にと着実に目標達成を目指す。

真銅先生、世界を相手に大健闘

十月七日から十七日の十日間に渡り、宮崎県で第10回世界ベテランズ陸上選手権大会が開かれた。ショーター、君原健二ら、かつての五輪の懐かしい顔たちも登場した世界大会だ。マスターズ陸上四百メートル60代の部の日本記録を持つ、昭和第一学園高校の真銅霊彦先生（栄町・61歳）は四百メートルとリレーの二種目に出場した。四百メートルでは世界の壁は厚く、準決勝で敗退かとも思われたが7位で残り、決勝では4位と大健闘だった。リレーではアンカーを務め日本は準優勝を果たした。

真銅先生のロマンはグラウンドを世界に移し、さらに、スパートをかけてゆく。

真如苑だより

今年は真如苑で除夜の鐘をついてみませんか。穏やかな明るい新年を迎えることを願い…。大晦日の夜は例年通り（午後十時～午前一時）どなたでも境内を参拝できます。鐘のつき手をご希望の方は当日午後十時半までにお申し込み下さい。（尚、受付人数に限りがありますこと、ご了承下さい）。

●

師走。心静かにゆく年を想うひとときもあっていいのでは……お出かけ下さい。

■日時　12月15日(水)　2時～4時

■御本尊、真如宝物館をはじめとして映画など盛りだくさんの用意がしてございます。

■お申し込みは「えくてびあん・コンパニオン」（本誌を手渡してくれた人）へ。

九中ギター部 時代を越えたアンサンブル

今ではすっかりお馴染みになった我等が九中ギター部がまたまたやってくれた。今春、全日本中学校ギターコンクール最優秀賞を受賞したかと思えば、秋には同コンクールで3年生（シニア）が金賞、1・2年生（ジュニア）が銅賞を受賞。さらには、数々の地域行事への出演、受験勉強との両立、チームワークの良さが高く評価され審査員特別杯に輝いた。OBで構成されるブルーベルギター合奏団も来年は十周年を迎え、ハーモニーの輪は大きく広がっている。

笑いが絶えない部員たちと豊島先生

久々に放課後、部屋へやってきた3年生たち

部室にくればすぐに弦に触れたくなる

●九中ギター部、活躍続く

立川市立第九中学校（守屋龍男校長）のクラシックギター部が九月十五日、93年全日本中学校・高等学校ギターコンクールで、3年生（シニア）が金賞、1・2年生（ジュニア）が銅賞を受賞した。併せて、地域の文化祭等行事への数多い出演・勉強との両立の努力・部員のチームワークが高く評価されて、日本音楽教育協会から審査員特別杯を贈られた。三月の同コンクール最優秀賞に続き、春秋連続の受賞である。

部長の大栄千鶴さんは、「十月八・九日の文化祭まで、3年生も毎日2時間練習を続けてきたことは大変だったけれど、その成果が実って大きな賞をいただけたことは本当に嬉しかったです。受験後、また練習できるのを励みに勉強に頑張ります」と語る。

顧問の豊島みのり先生は[illegible]顧問をしていたことから、九中ギター部を創設した奈良守康先生（現武蔵村山三中）の後を受け継いだ。生徒たちと一緒になってギターを奏でる指導に、奈良先生・OBの応援を得て、中学校トップレベルのクラブにと成長した。

●バックで支えるOBの力

毎週土曜日の夕方になると部室には、OBたちが集まってくる。九中ギター部OBはもちろん、奈良先生が以前指導していた小平二中ギター部OBも混じっている。年代も高校生、大学生、社会人と幅広い。このメンバーで構成されているのが『ブルーベル・ギター合奏団』だ。現役の九中のメンバーも、さらに高度な演奏技術を先輩たちに教えてもらおうと自分たちの部活の時間が終っても、楽しそうに仲間に加わっている。

昭和五十六年、「ギターを通して音楽の生活化」を考えていた奈良先生が九中にクラシックギター部を創設。初心者の中学生が馴染みやすい形に楽譜を編曲。水曜日を除く毎日2時間練習すれば誰でも名曲が弾けるようになると指導を重ねてきた。

今年三月に同コンクール最優秀賞を受賞したメンバーの一人である福島麗さんは述べる。

「三年間の私たちの練習の成果と後輩たちの力と気持ちが一つになって最優秀賞を受賞することができて嬉しく思います。このことは私の想いでの一つになり、合奏することの素晴らしさを知ることができました。みんなで持っている少しずつの力を合わせて、一つの曲を演奏することを自分の気持ちで味わって欲しいと思います」（定期演奏会十周年記念誌から）

豊島先生は、「合奏で、相手の気持ちに合わせることが身についてくると、自然に演奏もうまくなっている。演奏がうまくなっていると思うと、人間的にも成長している。このクラブの顧問をやめられないところですね」と笑顔で語ってくれた。

十一月七日、池袋で開催された『93楽器フェア』にも出演した。我等が九中ギター部の奏でる和音。心ひとつになった綺麗なアンサン[illegible]

ことわざ問答㊺

漢字一字挿入せよ

□術は　七日保たず

昨日は　今日の□

立川に住んで

三田 鶴吉（郷土史研究家）

多摩地方の年間雨量は平均一六〇〇ミリであって平均温度は9度であるという。暑さも35度を越すことは年に何回もなく零度になることも先ず何回もない。まことに良い地域と云わざるを得ない。崖崩れや破砕流の心配も先ず少ないところであり鉄道も自動車による交通網もまあまあであって良いところと云わざるを得ない。こんな良いところに住んでも不平たらたらの人も多くそれが人間と云うものであろう。シティーはカントリーよりも古いと云う言葉がある、町があって村が出来るものであって村が発展して町となるものだと思っている人が多い、その証拠に人は安い土地を求めて住むものなのだ。安い土地安いところを求めて人の住んだ代表がアメリカなのだ。この多摩も安い地の代表であったように江戸の大火を契機にどんどん人には増えて来て寺までも引越をして来て居り新田をどんどん作って行った。とりわけ関東大震災后の東京からの人口の流入は目を見張るものがあって軍の施設までがその頃からどんどん多摩に根を張り始めたのだ。その理由は気候、拡張の容易、水質、民生度などなどであって大正11年に完成した立川飛行場を皮切りに軍の飛行場は三、民間飛行機会社の飛行場一など広い畑や林がまたたく間に軍用地と化して行った。昭和20年迄のその用地買収費の安さは地価の安定をもたらしたと云うべきか夢のように安かったのである。立川飛行場の一坪（三、三平米）当たりの大正11年には二円六〇銭平均であって現横田基地（多摩飛行場）は坪ではなく一反（三〇〇坪）一〇〇〇㎡の売り買いで六〇〇円から七〇〇円なので二円位のものでありこれは昭和13年のことである。（現）森タウン―昭和飛行機㈱の買収もその頃を同じくしているので価格は同じではなかったかと思う。昭和19年2月11日に落成した現国家公務員立川共済病院―（陸軍航空関係病院）は坪十九円で買収されているので7年間で場所が違うけれども土地の値上がりも少しづつ多摩にも及ぼしているとみて良いであろう。多摩における土地の値上がりは昭和30年代からでありとりわけ東京オック亡国論も盛んではあるが土地問題に関しては言い得ているとも思われる。一つの川とりわけ一級河川がその地域の商圏を分けているが山も六〇〇メートルを越すと商圏を分け鉄道線路も土手つき道路と云われている高速道路も商圏を分けているようだ。東京と云う世界都市の多摩川も北と南に商圏を分けていることは間違いがないが見渡したところ多摩川ぞいのすべての市は明るい市である。多摩川がもつ魔力のようなものそれが多摩川から遠のく程に暗い市にしていることは明白である。明るいまちと暗いまち静かに見渡してみるのも良い事だ。既に多摩は安い土地を求めて人の集まるところではなくなりつつあり停滞の時期であるのかも知れない。昭和4年立川の野球場や競技場を寄付されたのは横浜の貿易商で成功され立川で点火栓（プラグ）工場で大成功した野沢源一郎氏であったが今その偉大な寄付行為を知っている人は殆ど居ない。本年7月31日そぼ降る小雨のように忽然とこの世を去られた井上重男さんの死なども立川の大きな力を失ったようだ立川歴史民族資料館設立が夢であったわたしたちに八〇〇坪（二四〇〇㎡）もの土地をぽんとご寄付下さったのは井上さんであったのだ。あの土地のご寄付が無ければ今だに立川には歴民は出来なかったのではなかろうか。また立川の古民家調査も重要なわたしたちの仕事でもあったが砂川の組頭的な存在であった小林家を頂戴しこのたび復元出来たことであった。この落成式の挨拶の中で古民家などと云う可きではない旧小林家居宅と云う可きだと申上げたが全くその通りだと思う立川の人々がこんな立派な家に住んでいたのではないから。

ことわざ問答 答

昨日は今日の夢

外術は七日保たず

表紙は語る

まい あーと　水彩画「裏街」by 松永安正

スペインの絵を描き続けている画家の松永安正さんは高森敏明著『バルセロナの厨房から』（白水社）の装幀と挿絵も手掛けている。そこにはこう書かれている――スペインのレストランではウェイターがオーダーを取り終えて、厨房に戻ってゆく時、にっこり笑いながら『ケ・アプロベーチェ』と客に声をかけてゆく。『よいお食事を』とか『ごゆっくり召し上がれ』と言った意味らしい。食べることを楽しみ、生きることを楽しむスペインの人々の心意気が伝わって来る言葉だ――学生時代をバルセロナで過ごした松永さんは物静かな容貌の中にも、『ケ・アプロベーチェ』と気さくに声をかけてくる雰囲気で、現地で、描いた絵の数々を見せてくれた。表紙の『裏街』も最近、バルセロナで描かれたものだ。スペインの気さくさの中にも静かな情熱が潜む松永ワールドだ。彼は大[illegible]ンから連れ帰った猫を飼っているし、猫の雑誌のイラストも手がけている。また、日野橋近くに建てられた団地の大壁面をデザインするなど、多方面で活躍している。

東風

かつて、西洋料理界にはパレスホテルに田中徳三郎、資生堂パーラーに高石鉄之助、レストラン・キャッスルに荒田勇作といった斯界の巨星がいた。この時代のコックさんたちは義務教育をおえるとでっち小僧という形で、調理場の下働きに明け暮れた。先輩から技術を盗み、ない時間の中を縫ってフランス語の勉強を重ね、ついにエスコフィエの原書を読みくだしてしまう修業の日々は正に「蛍雪時代」である●弟子という距離にあたるのだろう、ホテルオークラの小野正吉、帝国ホテルの村上信夫といった人たちが更に料理道に磨きをかけ、今日では若者「憧れの」職業として、その才を競うまでになった●本誌で「TACHIKAWAグルメどき」が連載できるまでに、料理人がいきいきとその覇を競っている。うれしいな●[illegible]高木美代子さん（錦町）は料理好きが高じて、ご主人が経営している工務店の二階に食堂を開いてしまった。とかく、この手の店はもったいつけて、コーキューぶるものだが、高木さんの店はザックバランを絵にしたようで、割烹着がとてもよく似合い、人をもてなす喜びでいっぱいなのだ。秋のある日、二階へあがろうとしたら先客と擦れ違いざま「今日は栗ご飯よ」と声を掛けてくれた。見ず知らずのご婦人であった●えくてびあん暮の姿や　かえりばな　●

立川クイズ

人が歩き、物が行き来した道が街道となりました。立川の周辺にも、いくつもの街道が残っています。鎌倉御家人が幕府へ参じる道として作られ、やがて大山詣でをする庶民の道となったのが鎌倉街道であり、江戸時代に行き来した道が甲州街道であり、檜原や五日市の薪・炭を運んだ道が五日市街道です。奥多摩街道は多摩川を筏で下ってきた乗り子たちの帰り道でした。では、青梅街道は次の3つのうち何を運ぶための街道だったでしょうか。

①江戸城の白壁のための石炭
②将軍家に献上する梅
③燃料となる薪・炭

【11月号の答】❶

多摩の東京への移管は、突然のことで大きな反響を呼びました。昭和十八年に東京府から東京都に移行する際も東京市が郡部だった三多摩を除外するよう主張、過去のいきさつも絡んで、大変な議論を引き起こしたそうです。多摩が東京都になるまでの道は厳しかったのです。

月刊えくてびあん　第113号
平成五年十二月一日発行
発行所　えくてびあん編集工房
東京都立川市曙町2-17-5
杉田ビル6F　〒190
電話　〇四二五(28)0082
FAX　〇四二五(28)1297
編集発行人　立井啓介
印刷所　㈱大廣社

（編集）池田隆男　隅川理　名尾居真　中村裕里　原田悦子　半沢正弘　町田健一　山田恵子
（写真）天野武男　板橋一明　井上義治　スタジオ269　枝川一巳　本多修

眼が語る

眼は口ほどにモノを言う。
コトバにならない思いも語る。

No.5 サービスする眼

ベットメイキングする。布団の折り返しを確認する眼が鋭く光った。これをリサイクル商品として蘇らせるには…手にした品物を見つめ、アイデアを練る

手を抜かない。基本を守る。さりげない配慮に気がつかないこともあるが、確かに見ているサービスする眼。

撮影：中村　伸
デザイン：池田隆男